

4 横浜みどりアップ計画市民推進会議

(1) 横浜みどりアップ計画市民推進会議の概要

横浜みどりアップ計画市民推進会議は、市民参加の組織により、みどりアップ計画の評価及び意見・提案、市民の皆さんへの情報提供等をおこなうことを目的として、平成21年に設置し、平成24年からは条例設置の附属機関に位置付けました。これまでに全体会議や専門部会の開催に加え、参加市民を公募した現地調査を実施し、市民意見の聴取にも努め、計画の評価、提案を行ってきました。

みどりアップ計画を推進するうえで、市民推進会議のこのような取組は大きな役割を果たしており、平成26年度からのみどりアップ計画についても、継続して活動しています。

【表】委員名簿（50音順・敬称略、平成29年3月31日時点）

氏名	所属部会	区分	備考
相川 健志	・「農を感じる」施策を検討する部会委員 ・広報・見える化部会委員	公募市民	
網代 宗四郎	・「緑をつくる」施策を検討する部会委員	関係団体	横浜市町内会連合会 委員
東 みちよ	・「森を育む」施策を検討する部会委員 ・広報・見える化部会部会長	公募市民	
池田 信彦	・「緑をつくる」施策を検討する部会委員	関係団体	よこはま緑の推進団体連絡協議会 会長
池邊 このみ	・「緑をつくる」施策を検討する部会部会長	学識経験者	千葉大学大学院 園芸学研究科 教授
大竹 斎子	・「農を感じる」施策を検討する部会委員 ・広報・見える化部会委員	公募市民	
加茂 千津子	・「森を育む」施策を検討する部会委員 ・広報・見える化部会委員	公募市民	
清水 靖枝	・「森を育む」施策を検討する部会委員	関係団体	長屋門公園管理運営委員会 事務局長
進士 五十八	・座長	学識経験者	福井県立大学 学長
関水 金作	・「森を育む」施策を検討する部会委員	関係団体	追分・矢指市民の森愛護会 会長
葛谷 栄一	・副座長 ・「農を感じる」施策を検討する部会部会長	学識経験者	農的社会デザイン研究所代表
長瀬 里佳	・「緑をつくる」施策を検討する部会委員 ・広報・見える化部会委員	公募市民	
野路 幸子	・「農を感じる」施策を検討する部会委員	関係団体	元横浜市中央農業委員会委員
望月 正光	・「森を育む」施策を検討する部会部会長 ・広報・見える化部会委員	学識経験者	関東学院大学 経済学部 教授
糀山 功	・「農を感じる」施策を検討する部会委員	関係団体	横浜農業協同組合 常務理事
若林 史郎	・「緑をつくる」施策を検討する部会委員	関係団体	横浜商工会議所 常任参与

(2) 28年度の活動実績

ア 全体会議

全体会議、現地調査、部会での議論をもとに「横浜みどりアップ計画の評価・提案」（横浜みどりアップ計画市民推進会議報告書）について検討しました。

	開催日	主な討議内容
第24回会議	平成28年 6月9日	<ul style="list-style-type: none"> ・市民推進会議平成27年度報告書（案）について ・横浜みどりアップ計画平成27年度事業実績及び平成28年度の事業内容について ・市民推進会議平成28年度の取組について
第25回会議	平成29年 2月6日	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜みどりアップ計画の進捗状況について ・市民推進会議平成28年度報告書について

イ 部会

《施策別専門部会》

横浜みどりアップ計画の事業分野ごとに、取組の内容と進捗状況について意見交換を行い、評価・提案について検討しました。

会議	開催日	主な討議内容
第9回「森を育む」 施策を検討する部会	平成29年 3月7日	・「森を育む」施策の評価・提案について
第9回「農を感じる」 施策を検討する部会	平成29年 3月16日	・「農を感じる」施策の評価・提案について
第9回「緑をつくる」 施策を検討する部会	平成29年 3月9日	・「緑をつくる」施策の評価・提案について

《広報・見える化部会》

市民推進会議の広報誌「みどりアップQ」の編集を行いました。

市民の視点から、横浜みどりアップ計画と横浜みどり税を市民の皆さんへわかりやすく伝える方法について検討しました。

また、横浜みどりアップ計画の取組を伝えるための子ども向けイベントを企画し、開催しました。

会議	開催日	主な討議内容
第29回	平成28年 6月20日	<ul style="list-style-type: none"> ・みどりアップQ第7号について ・みどりアップQ第8号のテーマについて
第30回	平成28年 9月9日	<ul style="list-style-type: none"> ・みどりアップQ第8号について ・みどりアップQ第9号のテーマについて

会議	開催日	主な討議内容
第31回	平成28年 11月24日	・みどりアップQ 第9号について
第32回	平成29年 3月14日	・事業の評価・提案について ・みどりアップQ 第10号のテーマについて

《調査部会》

横浜みどりアップ計画の取組を実感し、現場で活動する方々の声を直接聞くため、現地調査を実施しました。

会議	開催日	主な討議内容
第16回	平成28年 9月17日	<p>＜場所＞</p> <p>①地域緑のまちづくり 柿の木台地区（青葉区柿の木台） ②もえぎ野ふれあいの樹林（青葉区もえぎ野） ③恩田町の水田（青葉区恩田町）</p> <p>＜内容＞</p> <p>緑化の整備を行った柿の木台地区を歩き、取組や緑化の説明を受けました。また、もえぎ野ふれあいの樹林では、愛護会の方から維持管理内容の説明を聞き、みどりアップ計画により保全した水田のあぜ道を歩き、活動内容等の説明を受けました。</p>

【写真】現地調査の様子



ウ 広報誌の発行

「みどりアップQ」を3号（平成28年9月、12月、平成29年2月）発行しました。



【図】「みどりアップQ」の表紙

エ 報告書の発行

横浜みどりアップ計画市民推進会議平成28年度報告書を発行します。
(平成29年6月)



【図】報告書の表紙

(3) 評価と提案の概要

※「横浜みどりアップ計画 3か年の評価・提案（横浜みどりアップ計画市民推進会議 平成28年度報告書）」より抜粋

計画全体として、柱ごとに数多くの取組で着実な推進が図られています。

「取組の柱1：市民とともに次世代につなぐ森を育む」については、みどりアップ計画の根幹の事業である樹林地の指定は、3か年の目標量（300ha）に近いペースで進捗しています。来年度の目標の達成に向け引き続き取組を進めてください。また、良好な森を育成する取組や、森と市民とをつなげる取組が着実に進められたことを評価します。

「取組の柱2：市民が身近に農を感じる場をつくる」については、水田保全奨励など、主要な取組については概ね目標を達成していますが、共同利用設備の整備など目標を達成できていない取組もあります。横浜に残る貴重な水田景観の保全に向け、引き続き取組を進めてください。また、多様な農園があることで、市民の多様なニーズに応じることができるので、今後もそれぞれの農園の開設を進めてください。

「取組の柱3：市民が実感できる緑をつくる」については、民有地における緑化の助成では、目標値の半分程度の件数にとどまっています。今後は、より市民や事業者に利用しやすいような制度への見直しも必要かもしれません。保育園・幼稚園・小学校での緑の創出については、多様なかたちで、子どもが緑にふれる場を生み出していることを評価します。公共施設や都心臨海部などで創出された緑は、今後も良好に維持していくことが重要です。

「効果的な広報の展開」については、アニメーションを活用したPRなど、新たな試みが広がる中で、より市民の視点からの広報が行われるようになったことを評価します。

3か年で具体化された多くの取組を、引き続き、作っただけでなく有効に活用しながら、みどりアップ計画の成果を一層実感してもらうことが重要です。

みどりアップ計画は、関係する市民や団体、事業分野が多岐にわたるので、市民生活により身近な区役所などと連携した取組が進むことを期待します。

平成28年度は、みどりアップ計画の5か年の折り返しの年でしたが、目標達成に向けて取組が着実に推進されることを期待します。



